

企業・団体と学生が協働し、企業・団体における
環境に関する取組の新たな展開を大研究!
あいちの「人づくり」プロジェクト!

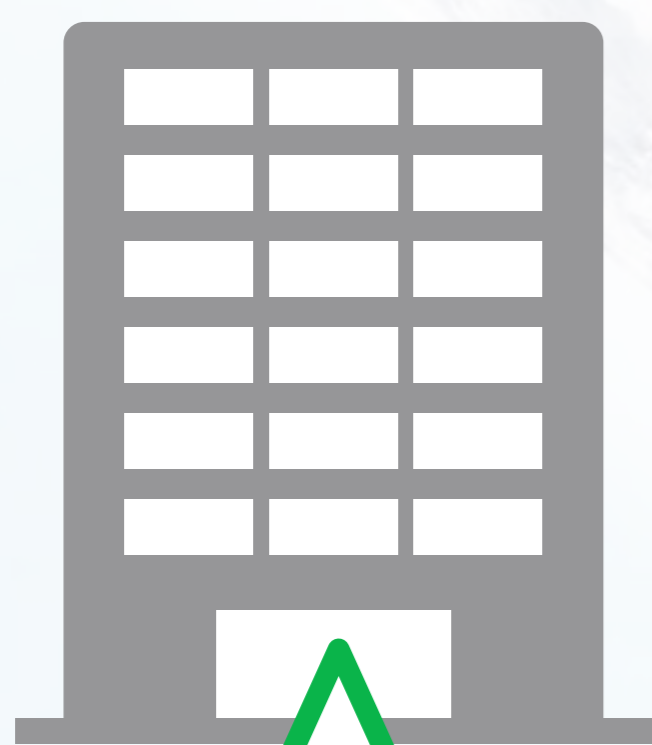


かがやけ★ あいちサステイナ研究所



かがやけ★あいちサステイナ研究所とは

未来のあいちの担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるように、愛知県が立ち上げた「人づくり」プロジェクトです。
パートナー企業・団体の環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や、企業・団体担当者とのディスカッションを実施して、解決策を企業・団体側に提案し、その成果を広くPRします。



課題提示

解決策提案

かがやけ★
あいちサステイナ研究所

所長
愛知県知事
大村 秀章

研究員
学生

広く情報を発信!

イベント・大学での発表



YouTube

twitter

2018年度
パートナー企業・団体
(五十音順)

新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

DENSO
Crafting the Core

IKEA®

kao

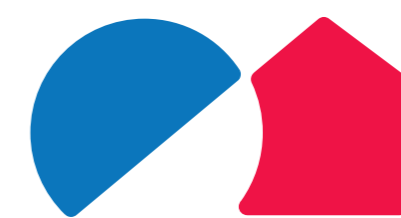


STARBUCKS®

トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

伊藤園

JAグループ 愛知



SEKISUI HOUSE

NEXCO
中日本



課題

**トヨタ車体ふれ愛パークを拠点とした
新たな環境イベントを検討せよ**

トヨタ車体は長期環境ビジョンを策定し、「人と自然が共生する未来づくり」を目指して生物多様性の保全・環境学習を推進している。その一方で、世界共通の課題である「生物多様性の主流化」を推進していくことが重要と認識している。そこで、トヨタ車体のふれ愛パークを拠点として生物多様性に関心のない方々にも気軽に参加していただける新たな環境イベント等を検討する。

解決策

**「知識」と「意識」を変え、そして「行動」できる
場づくりを通じてサステイナブルな社会へ**

**解決策の方向性
(考え方)**

ふれ愛パークでは「生態系見守隊」が中心となり、「生物多様性の保全」と「ESDの推進」を目的にイベントを行っている。その一方、生物多様性の認知度は低下しており、主流化の推進には「無関心層」の巻き込みが重要と考えた。そこで生物多様性の4つの危機を知り、知識と意識を変え、行動につなげる環境イベントを検討した。

具体的な展開案

1 環境イベント「小さな地球」

私たち人間が世界各地で生態系を破壊し、たくさんの生き物が危機的状況に陥っている。そこで、「4つの生物多様性の危機」に関連するプログラムから学ぶことによって当事者意識を持たせる。そして「ふれ愛パーク」で自然体験を通じて、生物多様性が保全されている「小さな地球」を体感する。



行動

2 「生態系守り隊」の発足

「小さな地球」の参加者や学生など、環境意識が芽生えた人々が参加できる「生態系守り隊」を発足。活動中の「生態系見守隊」と連携して、「小さな地球」を毎年開催することで、活動の参加者を増やす。

生態系守り隊

- イベント参加者
- 大学生
サステイナ研究所
修了生等

生態系見守隊

- ふれ愛パーク
地域連絡会



- 地域
- 学校
- 行政

3 情報発信

生態系守り隊の思いや活動内容を拡散する。
(環境省公式Youtube等に投稿)

**持続可能な
社会への
ポイント**

- 生物多様性に関心を持つ人が増え、ふれ愛パークでの活動への参加や地域での保全活動につながる。
- 学生がふれ愛パークでの活動を通じて、企業・団体・専門家と関係を築き、持続可能な社会の担い手として成長する。

研究員からのメッセージ

私たちはトヨタ車体が行っている生物多様性の保全活動への参加を通じて、生物多様性の知識と意識が変化し、大きな危機感を抱きました。今回提案した環境イベント「小さな地球」が実現し、持続可能なイベントになるよう、これからも応援していきます。

チーム・トヨタ車体

リーダー ★愛知学院大学3年 三浦 隆義 / 中京大学3年 宇佐見 愛香
大同大学1年 尾崎 巧 / 南山大学3年 濱村 京太郎

ファシリテーター

NPO法人AKJ環境総合研究所 志水 剛氏



課題

“smart move”を実践し、 社会に普及させる方法を検討せよ

デンソーの環境方針「エコビジョン2025」では、低炭素な暮らし・移動を推奨している。移動に伴うCO₂排出量は、私たちの生活全体の約1/4を占めており、エコで賢い移動手段である“smart move”がCO₂削減につながる。今年度はパーク&ライドや公共交通機関での移動等、“smart move”を促進させる具体的なアイデアを検討する。

解決策

YES/NO診断による 最適な“smart move”の実践

解決策の方向性 (考え方)

まだ認知度が低い“smart move”。一人一人の“smart move”度を簡単に把握した上で、それぞれの傾向に合った方法で“smart move”の実践が“楽しく”促進できるような方策を検討した。

具体的な展開案



YES/NO診断ノートの特徴

- 自分の“smart move”度を簡単に診断
- 特徴別にタイプ进行分类。各タイプに最適な移動方法、取組を提案。
“smart move”の実践へ!
※デンソーのイベントやWebで広く配布

車好きタイプ

車をよく使うあなた

車の利用がやむを得ないタイプ

どうしても車が必要なあなた

実はできているタイプ

免許はあるけど、あまり車を使わないあなた

Smart Drive Grand prix

車の利用が
やむを得ない
タイプ

11月のエコドライブ月間にデンソー社員が既存のアプリを用いてエコドライブの点数を計測し参加者で競い合う。さらに地域の方に参加を促し、得点を競争することで、参加者のエコドライブの日常化を目指す。

「ダンス」で健康

車好きタイプ

車をよく使う人々に体を動かす楽しさを体感してもらうため、学生と大人が一体となってダンスする企画を提案。さらに動画共有サービス“TikTok”で情報発信。体を動かすことが健康と環境に良いことをアピールする。

YES/NO診断で “smart move”の未来へ 走り出そう



実はできている
タイプ

「アート」で導く未来への道

徒歩や公共交通機関でみんなが行きたくなくなるような未来のアートを描く。そこに描かれるのは、私たちの住む未来の世界。歩く魅力に気づき、思い出の写真をSNSに投稿しませんか？

持続可能な 社会への ポイント

- 車を運転せざるを得ない人にはエコドライブによる環境にやさしい運転を提案。
- 車に頼らず、徒歩や自転車等で体を動かすことにより、環境だけでなく健康にも良いことを体験。
- 未来のアートの場所に行くことで、すすんで徒歩や公共交通機関を利用する。

日常生活における

“smart move”の実践につなげる!

研究員からのメッセージ

「その人の生活にあった“smart move”」をチーム・デンソーの想いをもとに検討しました。移動手段を少し意識するだけで楽しく、簡単に実践できることが分かり、私たちだけでなく「地域社会にも広げたい!」という想いが強くなりました。私たちが中心となって実践し、“smart move”が当たり前な世界を目指します。

チーム・デンソー

リーダー ★愛知淑徳大学3年 高野 夢 / 愛知県立大学3年 伊澤 和樹
星城大学3年 近藤 啓介 / 金城学院大学3年 吉廣 愛梨

ファシリテーター

愛知淑徳大学 CCC 秋田 有加里氏





STARBUCKS®



かがやけ★
あいちサステイナ研究所

課題

私たちの社会貢献活動に共感し 行動できる仲間を増やす企画を検討せよ

スターバックスは「コミュニティへの貢献」「倫理的な調達」「環境面でのリーダーシップ」を推進している。昨年度の研究所では、店舗とコミュニティを結ぶ共通目標を設定し、みんなで達成する社会貢献活動の仕組みを提案した。今年度はさらにこの提案を具体化し、店舗でお客様と一緒に社会貢献活動に取り組むことができるプログラムの開発を検討する。

解決策

豊かで活力ある未来へのつながりを創る “伝達人”になろう

解決策の方向性
(考え方)

スターバックスの店舗では様々な社会貢献活動を行っているが、調査の結果、あまり知られていないことが分かった。これを踏まえ、社会貢献活動を知ってもらい、参加を促すため、パートナー(従業員)、お客様、友人、家族といった“人のつながり”を通じて社会貢献活動をする意義を伝える仕組みを検討した。

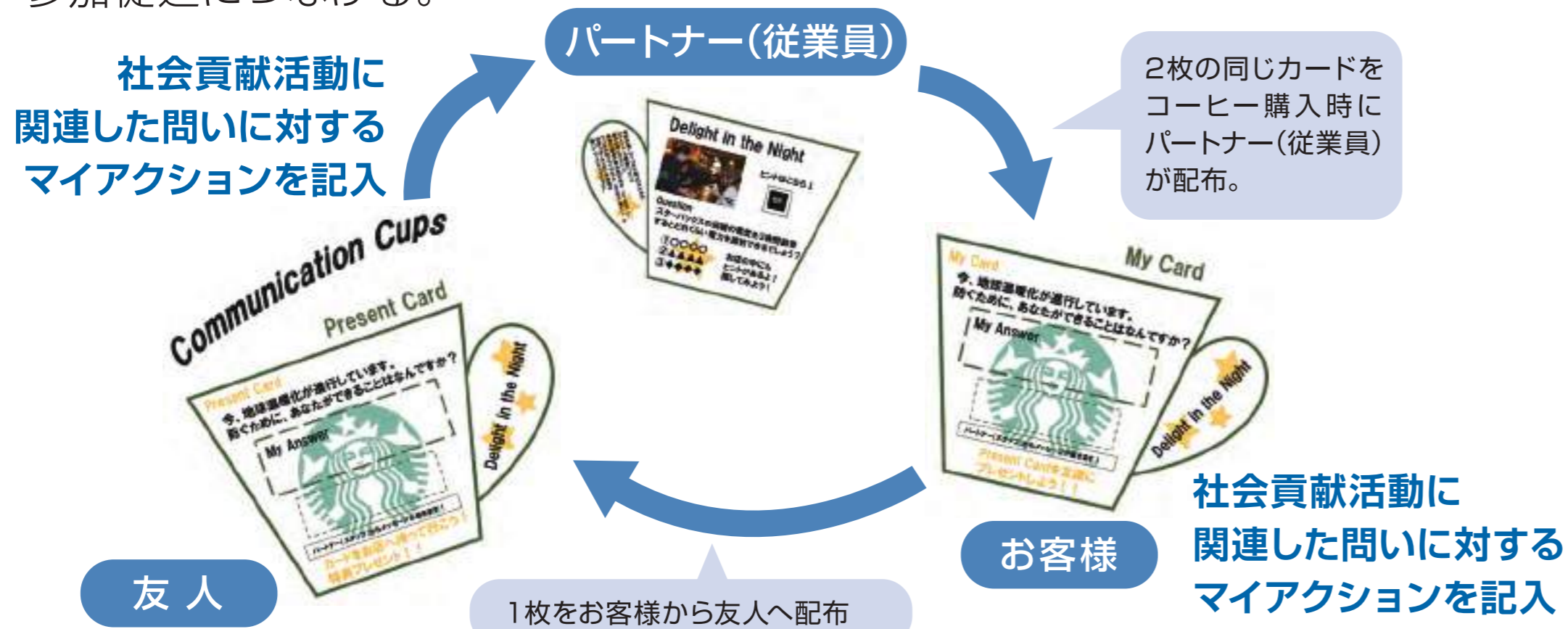
具体的な展開案

Communication Cups

～カードを通した新たな仲間作り～

注文時にパートナー(従業員)が同じ内容のカードを2枚配布。1枚はお客様がスターバックスの社会貢献活動に関連した問いかけに対するマイアクションを記入。もう1枚は来店特典付きでお客様が友人にプレゼント。パートナーからお客様、お客様から友人へカードの内容が伝達される。

さらに、カードをもらった友人がマイアクションを記入して来店し、カードがお店に戻ってくる(このとき特典をプレゼント)。パートナー(従業員)とのコミュニケーションを通じて社会貢献活動の魅力を感じてもらい共感と参加促進につなげる。



Talk for you

～トークイベントの開催～

スターバックスの社会貢献活動の関連企画として、お客様が活動の内容や意義を学べるトークイベントを開催。活動のテーマに関連した、地域のトークゲストを招待する。トークイベントに参加することで、活動の意義を理解するとともに、アクションを起こしたいと共感し、積極的に活動に参加する仲間が増える。また、トークイベントや活動での体験を友人・家族に伝えたいという気持ちが生まれる。



持続可能な 社会への ポイント

- カードを利用することで、お客様主体のつながりとパートナー(従業員)とのコミュニケーションを通じて新規のお客様を取り込み、社会貢献活動への参加促進を行うことで、豊かで活力ある持続可能な未来づくりのための仲間を増やす。
- トークイベントに参加することで、スターバックスの活動の意義を深く知り、心に生まれた感動が“行動したい!” “伝えたい!”を創り出す。
- 次の人に伝えることで、“伝えるループ”が生まれ、持続可能な社会を作る仲間が増える。

研究員からのメッセージ

スターバックスの外に出ても、お客様が日々の生活の中で環境のために行動することに対し、わくわくする気持ちが生まれるきっかけとなればと願いを込めました。家庭や職場、学校とは異なった、身近にある場所、スターバックスの温かい雰囲気の中で人々の心が豊かで活力あるものになってほしいと思います。

チーム・スターバックス

リーダー ★愛知教育大学3年 永田 海成 / 椋山女学園大学3年 後藤 葵
名古屋市立大学2年 清水 夏波 / 名城大学2年 仁瓶 菜里

ファシリテーター

フィットラボ 代表 松本 イズミ氏



課題

若者が農業の環境保全機能を実感し 農業応援団となるPR方策を検討せよ

農業は、農産物の供給だけでなく国土や水など自然環境の保全等の多面的機能を持っており、国産農産物を消費することが、農業を守り、環境保全にもつながる。特に地元農産物を消費することはフードマイレージを低下させ、環境保全効果を高める。若者が農業の環境保全機能を実感し、農業応援団として積極的に地域農業に関わっていきいたい!と思えるPR方策について検討する。

解決策

知って、感じて、買って、農業応援団に! 愛知の農業を若者が盛り上げる!

解決策の方向性 (考え方)

「知って、感じて、買って」のSTEPを踏むことで若者が環境保全機能を実感し、積極的に農業応援団になることを促進する方策を検討した。

具体的な展開案

知って

SNSで農業について知ろう!

農業を知るきっかけとなるものとして、SNSの活用を提案。SNSは拡散力に優れており、広まりやすく、多くの人に情報を知ってもらえるメリットがある。そこで多くの若者が利用しているSNS「Twitter」や「Instagram」を活用して若者をターゲットに農業について情報発信を行う。



環境に配慮して栽培する赤とんぼ米の水田

感じて

学生交流会で恋も野菜も実らせよう!

「農業の魅力を感じて応援」をコンセプトに、学生が実際に農業に触れることで環境保全機能を実感できるイベントを企画。同じ興味を持つ学生が集まるので気軽に友人同士で参加できる。あまり触れる機会が少ない農業体験や農家の方との交流を通して農業の魅力をより深く知ってもらう。



＼あいちの農業を応援!／

買って

寄付キャンペーンで農業支援!

直売所で愛知の農産物を買うことにより、売り上げの一部が農業支援のために寄付され、「買って農業応援」を実感しやすくなるキャンペーンを提案。寄付キャンペーンの開催をSNSと連携することにより若者にも認知してもらうことができる。



持続可能な社会へのポイント

- 地元農産物を購入しようという意識を持つ若者が増えることにより、**地産地消の輪が広がり、フードマイレージの減少が期待される。** ※フードマイレージ…食料の輸送量に輸送距離を乗じた指標のこと(出典:農林水産省HP)
- 環境保全機能の実感によって、「**農業を大切にしよう**」という意識を持つ若者が生まれ、**農業応援団になり、農業の盛り上がりにつながる。**

研究員からのメッセージ

一人でも多くの方が農業応援団になることで農業が活性化し、持続可能な社会へつながっていきます。実は、愛知県は農業大国なんです!是非皆さんも農業の素晴らしさを感じて農業応援団になりませんか? 愛知の豊かな農業を支えるJAグループ愛知と私たち若者で、一緒に農業を盛り上げていきましょう!

チーム・JA

リーダー ★名古屋経済大学3年 坪井 真実子 / 愛知県立大学2年 亀島 瑞生
名城大学3年 田中 さくら / 愛知学院大学2年 西林 孝治

ファシリテーター

オーガニックファーマーズ名古屋 吉野 隆子氏





課題

LCAの視点による鉄の環境への やさしさについて広く普及する方策を検討せよ

鉄は製造からリサイクルまでのLCA(ライフサイクルアセスメント)の視点で見ると、非常に環境性能が高く、環境にやさしい製品と言える。今年度は、このLCAに注目し、鉄の環境優位性を広く普及させ、持続可能な社会につながるPR方法を検討する。

解決策

クロスワードパズルで学ぶ！ 持続可能な社会につながる鉄とLCA

解決策の方向性
(考え方)

社会見学の参加者に、LCA(ライフサイクルアセスメント)の視点で見た鉄の環境優位性を遊びながらわかりやすく伝え、持続可能な社会の実現のための行動へつなげる解決策を検討した。

具体的な展開案

LCAをクロスワードパズルと動画で知ろう！

皆さん、LCAという言葉をご存知ですか？

LCAとは、製品をつくる時からすてる時まで環境に与える影響をわかりやすい「ものさし」にしたもの。鉄は他の素材に比べ、つくる時とすてる時の環境負荷(単位強度当たり)は非常に小さい。さらに鉄製品の強度はこの先10倍になりうる可能性を秘めているため、環境負荷も小さくなる優れた素材と言える。

LCAと鉄について
学べるゲーム...

それが
クロスワード
です！

クロスワード				
た	ん	そ	5	ぺ
				ツ
				ト
				ボ
				ト
				スチール

7文字
Q5. リサイクルされている飲み物の容器は？

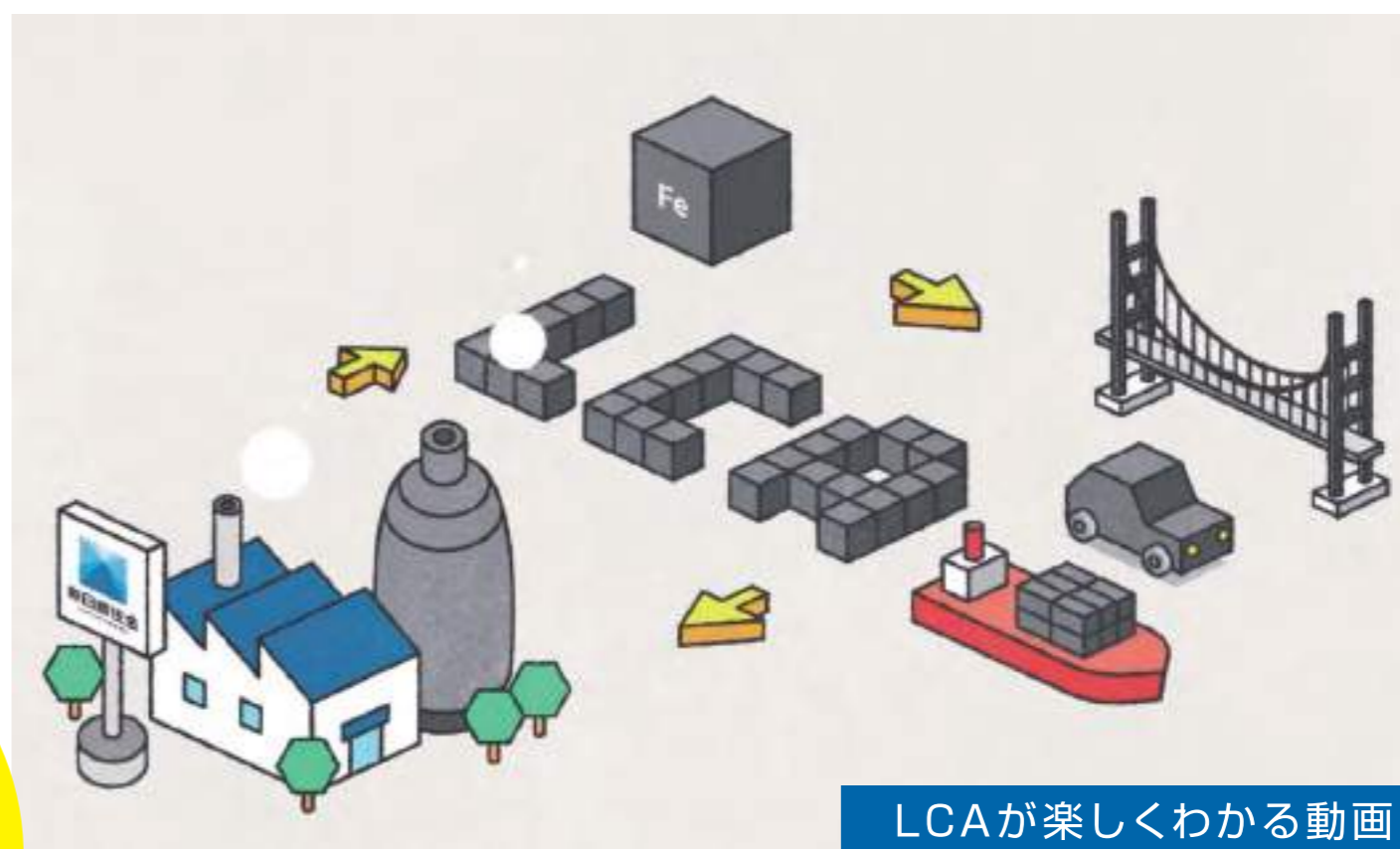
8文字
Q1. 元素記号「C」で示されるものは何？

9文字
Q9. 鉄は英語で何というでしょう？

動画へ

各問題には
LCAや鉄に関する
ワードが組み込まれて
いるのがポイント！

QRコードを
読み取ると、
新日鐵住金が作った
LCAが楽しくわかる
動画に繋がり、鉄の
良さを知ることが
できる。



LCAが楽しくわかる動画

また、家庭で分別されたプラスチック等が製鉄時の熱エネルギーとして利用されていることに気づくことで、ゴミを資源として意識できるようになる！そして、このクロスワードパズルが印刷されたオリジナルクリアファイルを社会見学の参加者(年間約25,000人)に持ち帰ってもらうことで、家族や友人と楽しみながら鉄の良さを学んでいただきたい！

持続可能な 社会への ポイント

- 鉄の生産から廃棄までの、一連の環境負荷を定量化したLCAという考え方を知ってもらう。
- 製鉄時の熱エネルギーとして利用されるプラスチック等の、分別への意識を高めることができる。
- LCAを正しく理解することで、環境優位性を持つ製品を知り、選択できるようになる。

研究員からのメッセージ

何度でも再利用可能な鉄ならではの特性を、一人でも多くの人に知ってほしいと思っています。今回提案したクロスワードパズルで、もっと鉄を身近に感じ、LCAや鉄の環境への優しさを知るきっかけとなり、一人一人の責任ある行動へつなげることを期待しています。

チーム・しんにつつまきん

リーダー
★中京大学3年 堀部 大輔 / 南山大学3年 飯塚 慎太郎
名古屋経済大学3年 鈴木 里佳 / 中部大学3年 萩原 悠平

ファシリテーター

ビオトップ・ネットワーク中部 会長 長谷川 明子氏



課題

NEXCO中日本の環境取組のPR方法を検討せよ

NEXCO中日本では、高速道路ネットワークの整備や渋滞緩和等による地球温暖化の抑制、廃棄物の発生抑制や副産物の有効利用など資源の3Rの推進の他、地域生態系への影響を最小限に抑える「エコロード(自然環境に配慮した道)」づくりなど、様々な環境取組を実施している。これらの取組を広くお客様に認知していただけるPR方法について検討する。

解決策

作ろーよ 学ぼーよ エコロード

～開発と環境の共存のあり方を学ぶ～

解決策の方向性
(考え方)

高速道路には、私たちが知らない様々な環境に配慮した取組が施されている。こうした取組をより多くの人に伝えるために体験型の楽しく学べるイベントを検討した。

具体的な展開案

模型づくりで
「高速道路＝エコロード」

NEXCO中日本では、動植物の保全を始め、様々な環境配慮が施されている高速道路「エコロード」づくりに取り組んでいる。この取組を、次世代を担う子供たちに伝えたいと考え、模型工作プログラムを企画。工作を通して開発と環境の共存を図るための創造力や問題解決能力を養うことができるよう工夫した。

模型工作プログラム

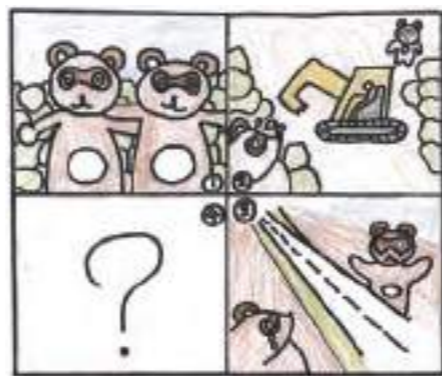
1 アイテムゲットクイズ

高速道路建設の基礎知識についてのクイズに挑戦し、正解率が高いとより良い模型のアイテムをゲットすることができる。



2 きみならどうやって高速道路を作る？

クエスチョンパンフレット(4コマ漫画)から高速道路建設に伴いどんな問題が生じるかを知る。



3 エコロードを作ろう！

高速道路建設に伴う問題を克服するよう、自由な発想でエコロードの模型を作る。



4 エコロードの理解を深めよう！

模型完成後には、アンサーパンフレットで、NEXCO中日本の環境配慮取組への理解を深める。



作ろーよ 学ぼーよ
エコロード



NEXT作戦

完成した模型の一部(アイテム)は植物用ポットとして使用できる。地域の在来種を育てることで、NEXCO中日本の取組をさらに学ぶことができる。

NEXT作戦



おがくずで
育てよう！

持続可能な
社会への
ポイント

- ターゲットを子供にすることで、次世代の環境意識の向上を図る。
- 開発と環境の共存を図るための創造力や問題解決能力を養うプログラムを開発。
- NEXT作戦により工作だけで終わる事のないよう、次の展開へとつなげることができる。
- 成果物を自由研究に利用したり、NEXCO中日本がコンテストを行うことでより広く普及させることが可能。

研究員からのメッセージ

高速道路は環境にマイナスなイメージがありますが、実は様々な環境配慮が施されています。こうした面をより多くの人々に知ってもらいたく、私たちは、子供たちが自主的に楽しく取り組むことができるよう工夫しました。今回の企画を実践してもっともっと高速道路について知っていただきたいです！

チーム・NEXCO

リーダー ★ 稲山女学園大学3年 川口 加奈子 / 中部大学2年 笥 紗南
中京大学3年 紺野 耕熙 / 名城大学3年 西川 祐貴

ファシリテーター

中部大学 工学部 都市建設工学科 准教授 岡本 肇氏



課題

サステナビリティに対する意識を高める お客様参加型イベントを検討せよ

イケアは、「より持続可能な暮らし」「資源とエネルギーの自給」「人々と地域社会により快適な暮らしを提供する」の3点を柱に、環境と社会にポジティブな影響を与えたいと考えている。この取組を広め、サステナビリティに対する社会の意識をより一層高めるために、イケアとお客様と一緒に実現するアクションを検討する。

解決策

実践しました!!

日常での環境行動へつなぐ環境イベントの開催 「LET'S PLAY! LET'S COOK!」

解決策の方向性 (考え方)

CO₂を削減する再生エネルギーを導入した店舗、環境に配慮した商品の提供、公共交通機関の利用推進などサステナブル社会の実現に向けて様々な環境取組を行うIKEA長久手。この思いを楽しみながらお客様に伝え、日常での環境行動へつなぐイベントを企画、実践した。

具体的な展開案

キッズパティシエ講座開催! ~お菓子作りを体験しながらサステナビリティについて学ぼう!~

企画のポイント

- ★IKEA長久手で開催する「LET'S PLAY すべての子どもに遊ぶ自由を」キャンペーンの期間に開催し、多くの参加者を集客する。
- ★次世代を担う子どもを対象としたイベントとし、イベントで学んだことを、日常での行動につなげる。
- ★環境配慮商品を使用し、お客様が環境に良い商品を選択するきっかけをつくる。
- ★イベントをIKEA長久手のコワーカー(従業員)さんと一緒に開催し、一人一人の意欲を向上。

実践

子どもたちが楽しみながら環境を学ぶイベント 「LET'S PLAY! LET'S COOK!」を開催

日程 11月17日(土)10:00~11:30

参加者 親子で30組



Aさん 環境や地球に優しい活動として良かったです。また、FIKAの時間で「食べきれない分だけ」という実践ができて良かったです。



Bさん 家だとあまりできない経験を子供たちが自由に楽しくできて良かったです。



Cさん サステナブルのテーマにぴったりなクイズが良かったです。

継続的な
取組へ...

1 お菓子づくり体験

フェアトレードチョコレートでクッキーにデコレーション。食器類も環境と安全に配慮したものを使用。



2 FIKA (スウェーデン風ティータイム)

ミルクやコーヒーに残ったチョコレートを使って、楽しくちょっと一息。コーヒーもUTZ認証の環境配慮商品を使用。



3 クイズに挑戦 サステナブルってなに?

デコレーションクッキーが出来上がるまで、環境への疑問をクイズ形式で楽しみながら学習。



4 体験を持ち帰り

出来上がったクッキーを環境に配慮したジップ付きプラスチック袋で持ち帰り、楽しかった体験を家族で共有。



エコキッズクラブ

今回のイベントだけでは、サステナブルな暮らしは広がらない。定期的子ども向け環境イベントを開催し、次世代を担う子どもたちが自分たちで世界をよくしていくんだと意識を持って主体的に活動してもらおうクラブを提案する。子どもたちの活動が家庭に地域に広がり、社会全体をサステナブルへ導く。

持続可能な 社会への ポイント

- お客様が、買い物やイベントを通し、環境に良い行動を選択することでサステナブルな暮らしを可能とする。
- 次世代を担う子どもたちが楽しみながらイベントに参加することで、環境行動が家庭、地域、社会全体に広がる。
- 環境イベントをコワーカー(従業員)さんと一緒に開催することで社内にも、サステナブル意欲が向上する。

研究員からのメッセージ

企業環境活動研究を通して、イケアのサステナブル社会に対する思いを知り、イベントを実施させていただき、サステナブルとは何かをお客様に楽しく知っていただくことができました。イベントをきっかけに、イケアからお客様へ、そして社会へ一人でも多くの方が環境活動に対する意欲が高まるとよいと願っています。

チーム・イケア

リーダー ★中部大学3年 服部 夢大 / 名古屋工業大学2年 東 明里
名古屋市立大学4年 國重 華 / 東海学園大学3年 三浦 有季恵

ファシリテーター

le-puro 清水 君代氏



課題

「お茶で愛知を美しく。」 環境活動を広げる方策を検討せよ

「世界のティーカンパニー」を目指す伊藤園では、「人と自然が共生する社会づくり」に向け、愛知県瀬戸市にある「海上の森」において間伐活動やお茶の木を育てる活動「お茶で愛知を美しく。～伊藤園 森と人とのCommuniTea～」を実施している。この環境教育や食育につながる環境活動を、地域全体に広げていく方策を検討する。

解決策

未来の環境、文化を担う CommuniTeaを広げ茶おう！！

解決策の方向性 (考え方)

「お茶で愛知を美しく。」キャンペーンを拡張し、「認知→参加→組織化→継続」という過程で環境に配慮できる人々の育成に貢献する方策を検討した。

具体的な展開案

認知 キャンペーンを身近に

キャンペーンを知ってもらうため、伊藤園が行う環境活動と森と緑づくりへの貢献を四コマ漫画にしたわかりやすいポップを作成し伊藤園のキャンペーンポスターの掲示とあわせてPRを行う。



参加 お～い○○さん！

SNS等で「○○さん」を募集し、瀬戸市にある海上の森で間伐体験、お茶会、フォトコンテストなどを開催し、環境活動を知ってもらうためのきっかけづくりをする。



参加 愛知の焼き物 × 伊藤園

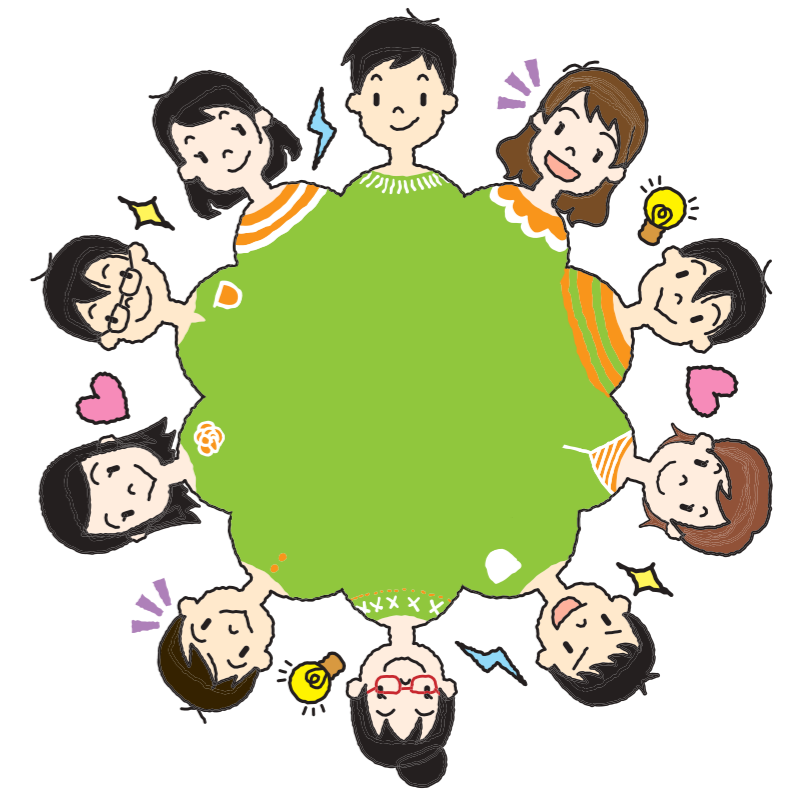
愛知の焼き物と伊藤園の商品を使ったお茶会等を開催。

それにより人々と伊藤園をつなぐ“新たな入口”を作り、茶文化のブランド価値を高める。



組織化 継続 茶衛隊

これからも伊藤園の環境活動を大切にしていきたい！という思いからキャンペーンへの参加者を“茶衛隊”に任命！伊藤園の広告塔として活躍する。茶衛隊には、新商品のお試し会や、伊藤園のイベントなどに参加できる特典がある。



持続可能な社会へのポイント

- 環境、地域、文化を大切にする伊藤園の活動を通じて、伊藤園と人々との新しいつながりが生まれる。
- キャンペーンの認知拡大に伴い、伊藤園の環境活動への関心を持つ人たちが増えることで、個人だけでなく地域全体で環境に配慮した行動ができるようになる。

研究員からのメッセージ

「愛知県で行う伊藤園キャンペーンを特別なものにしたい！」という想いでこの方策を検討しました。企業環境活動研究を通じて、私たちは伊藤園により愛着をもち、環境について以前よりも考えるようになりました。この解決策を通じ、より多くの人々が持続可能な社会を考えるようになれば嬉しいです！

チーム・伊藤園

リーダー
★中部大学3年 三原 高史 / 名古屋大学1年 稲垣 風花
愛知大学3年 河村 朋将 / 南山大学3年 徳永 萌里

ファシリテーター

NPO法人アスクネット グループリーダー 小柳 真哉氏



課題

100年後を見据えた「環境配慮型住宅」を検討せよ

積水ハウスにとって、「住まいを考えることは、まちを、社会を地球を考えること」である。現在、環境保全を始め多くの社会課題があり、積水ハウスは、これらの社会課題にしっかりと向き合いながら住まいづくりに取り組んできた。今後も100年先の未来を守っていくため、持続可能な社会に貢献する、今以上の環境に配慮した住宅づくりについて検討する。

解決策

「スマイルハウス」

HAPPYあふれる100年後のコミュニティづくり!

解決策の方向性
(考え方)

100年後を見据えた環境配慮型住宅。それは、環境負荷を抑えることができる、既存の住宅をうまく活用した「ストック型住宅」であることに気づいた。そこで、未来に続く新たな価値を付加し、地域にHAPPYあふれるコミュニティをつくる住宅を検討した。

具体的な展開案

スマイルハウス ～住まうコミュニティへ～

新たな選択肢、田んぼや畑のあるストック型住宅。それが「スマイルハウス」。
暮らす人々が土に触れ、農作物を育て、感じ、学び、食する。その楽しみを家族や地域と共有する。地域の人々と収穫した野菜の交換や、お食事会などスマイルハウスに暮らす人々がつながり、支え合うコミュニティを作る。



行こう!体験しよう! “スマイルハウスフェス”!!

これから住宅の購入を検討している20～30代の家族を対象に、「スマイルハウス」の楽しさや魅力を体験を通して伝えるイベントを開催。ストック型住宅の紹介を始め、田んぼや畑での農作業、収穫祭、自然体験、生きもの観察会などを実施。
自然と共に暮らす、自分が食べるものを作る、体験を共有し合うコミュニティの楽しさ、嬉しさを体感する。

魅力を発信! スマイルPR大作戦 「スマイルハウス」プロモーションツール

スマイルハウスを「知ってほしい」「選んでほしい」。そんな思いを主に次世代に届けるメッセージツール。シンプルなビジュアルを通して、スマイルハウスの魅力、楽しさ、喜びを伝え、持続可能社会を可能にする「新たな住まいのありかた」を提案する。

ストック型住宅

既存住宅

- 住宅履歴データベースの保有
- 50年以上のメンテナンスプログラム
- 新耐震基準レベルの耐震性の保持

安心



安全

付加価値

- 田んぼ・畑での農作業を通じた楽しみ
- 自分が食べるものを育て、感じる学び
- 楽しみ・嬉しさを共有するコミュニティ

楽しい



嬉しい

同業他社にも広げ
コミュニティを形成!

= スマイル ハウス



持続可能な 社会への ポイント

- 積水ハウスのリーダーシップにより、同業他社と連携した解決策の展開を可能にする。
- 「住まうコミュニティ」へと、コミュニティに暮らす人々の意識が高まり、支え合う関係を創り出す。
- 自分が食する農作物を作ること、楽しさや喜びを感じ、地産地消の価値に気づく。
- 参加、体験による学び(ESD)の場を「住まい」を通して提供する。



研究員からのメッセージ

企業環境活動研究を通して、普段何気なく暮らしている家について今一度考える事ができました。100年後も人とのつながりが途絶えることなく、喜びや楽しみ、HAPPYあふれる次の世代につながる街をつくる住まい「スマイルハウス」が、現代から未来にかけて、一人でも多くの人の選択肢として受け入れられることを願っています!

チーム・積水ハウス

リーダー ★東海学園大学3年 今井 鴻之介 / 愛知学院大学2年 金井 優美香
金城学院大学1年 林 真侑子 / 名城大学3年 安田 大冴

ファシリテーター

NPO法人 市民社会研究所 専門研究員 新海 洋子氏



課題

SDGs達成に貢献する未来の「お洗濯」を提案せよ

「お洗濯」は、衣類の清潔だけでなく自分らしい美しさが引き出され、こころの“きれい”にもつながるが、世界中で清潔な暮らしのために水や洗剤が大量に使われ、今の「お洗濯」は永続的にできなくなる可能性がある。花王は、“きれい”を満たすものづくりを通じて人と地球の未来に貢献していくため、IT技術を駆使したSDGs達成に貢献する未来の「お洗濯」を検討する。

解決策

「水も一緒にお洗濯」がコンセプトの新機能洗剤を開発

解決策の方向性
(考え方)

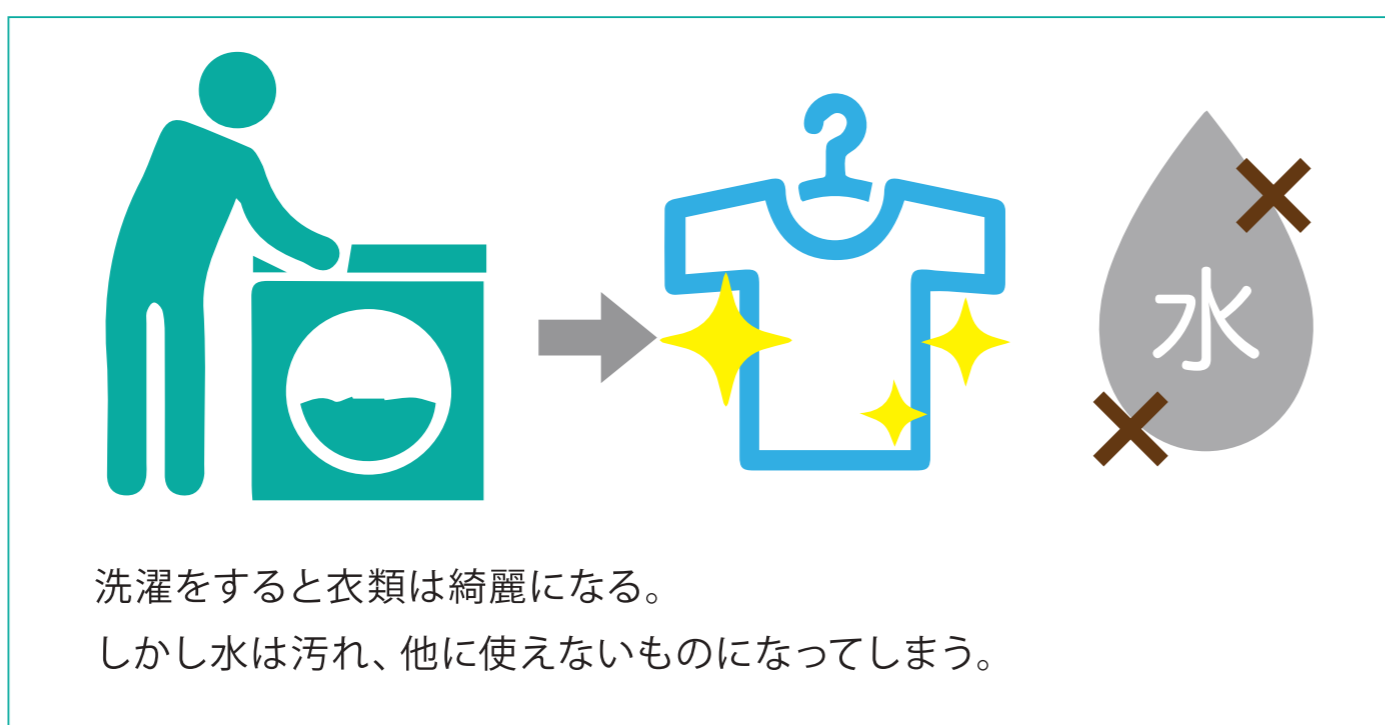
SDGs達成年度である2030年に向けて「世界的な水資源不足への対策」「洗濯・洗剤のあり方」を中心に自分らしい美しさを引き出す「未来のお洗濯」を検討した。

具体的な展開案

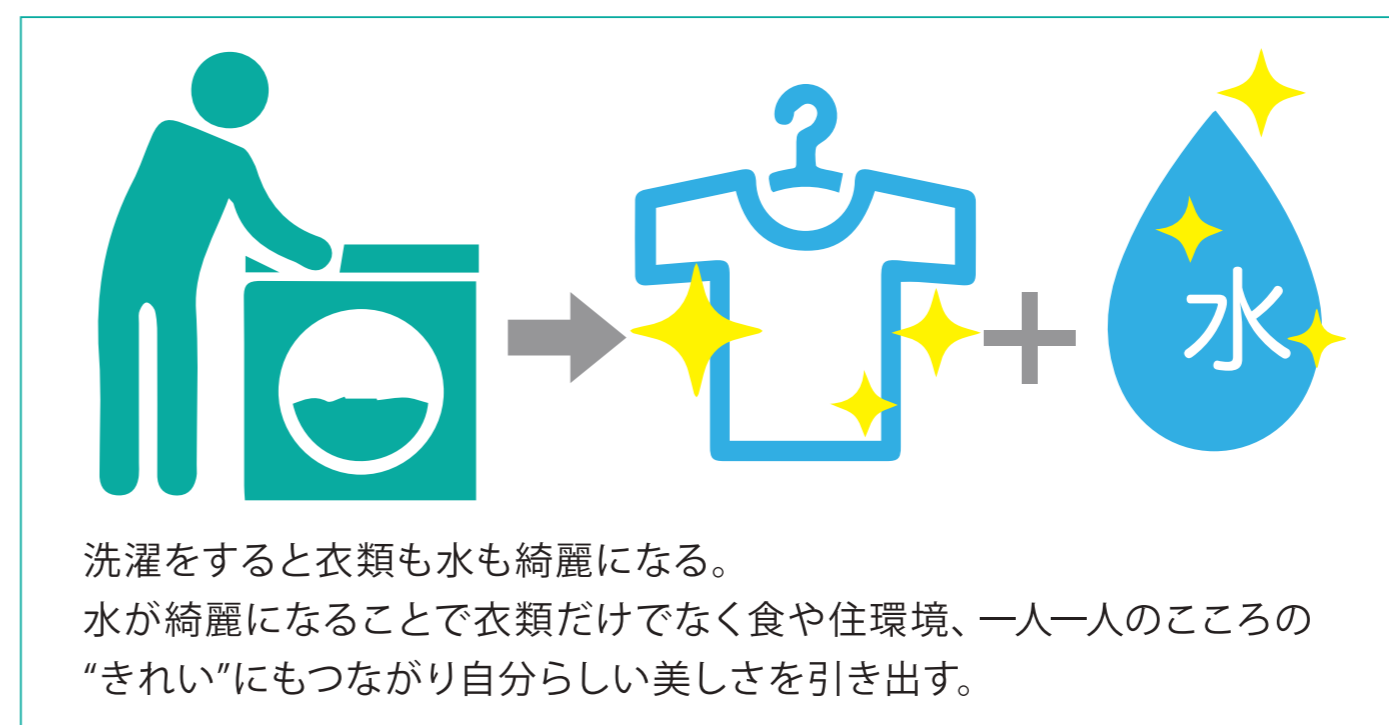
水もいっしょにお洗濯

洗剤の従来の機能である「汚れを落とす機能」に、「洗濯後の水が綺麗になる」新機能を追加した新洗剤を提案。新洗剤を使用すると、洗濯後に排出される水が現状より綺麗な水となり、下水処理場の負担が減少。最終的には家庭内での再利用が可能となり、水資源利用の効率化につながる。また、水不足に悩む地域の人々はお洗濯を通して綺麗な水を手にいれることができるようになる。衣類だけにとどまらない“きれい”を世界中にもたらすことにつながる。

現在のお洗濯



提案する未来のお洗濯



いっしょに“体感”プロジェクト

日本のように、水が綺麗なことや洗濯できることが当たり前になっている国もある。また、洗濯を人ではなく、機械やAIなどが全ての作業を行うようになると、洗濯から生まれる家庭内のコミュニケーションが減少してきてしまう。そこで私たちは洗剤の新機能を利用し、洗濯後の排水を有効活用できるプロジェクトを提案。このプロジェクトにより、洗濯を通して水が綺麗になることの良さを体感しながら家族で楽しめる場を作り、さらに水資源の大切さを考えるきっかけにする。また、IT技術を活用し、洗濯後の排水が環境とどう繋がるかを「見える化」し、見て知ってもらうことから環境問題への入り口となる。



持続可能な社会へのポイント

- 洗濯を通じて、水資源を効率的に利用することができる。
- 「水資源問題」と「人と人とのつながり」について考えることで、一人一人が環境に対する意識を高めるきっかけとなる。

SDGs達成に
貢献



研究員からのメッセージ

衣類の清潔だけでなく自分らしい美しさが引き出され、こころの“きれい”にもつながる「お洗濯」。私たちは、今回洗濯のあり方を考え直すことによって、「世界の水資源不足問題の解決」、「清潔な暮らしや人と人とのつながりを守る」ために花王グループの環境宣言スローガンである“いっしょにeco”を理解し、広めることで人と地球の未来に貢献していきます。

チーム・Kao

リーダー ★名古屋学院大学3年 竹内 莉子 / 愛知淑徳大学3年 小林 知世
名古屋学芸大学3年 千村 咲彩 / 名古屋商科大学3年 坂東 到真

ファシリテーター

「なごや環境大学」実行委員会 丹羽 陽子氏

